

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	27	文化芸術活動の充実		
主な取組	○ 文化芸術活動への参加の促進			
	○ 子供たちの文化芸術活動の充実			
	○ 障害者の文化芸術活動の支援			
	○ 県立美術館などにおける活動の充実			
	○ オリンピック・パラリンピックなどの開催を契機とした文化芸術活動の振興			
担当課	特別支援教育課、文化資源課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
埼玉県芸術文化祭の開催	8,782	<p>地域に根差した埼玉文化の創造に向け、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を提供するため、埼玉県芸術文化祭を開催する。</p> <p>○地域文化事業（53団体が55事業を実施、716,446人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村や文化団体との共催により、地域に密着した伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会など県内各地で開催</li> </ul> <p>○第70回記念埼玉県美術展覧会（出品点数3,474点、出品者数2,863人、観覧者数23,104人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の創作した美術作品を県立近代美術館で展示・公開（日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門）</li> </ul> <p>○芸術文化ふれあい事業（58事業実施、5,201人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化団体が学校や公民館などに出向いて、公演や実技指導を行う事業</li> </ul> <p>○協賛事業（66事業承認、230,081人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の協賛事業として承認</li> </ul>	<p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で3年ぶりに埼玉県美術展覧会を開催したことなどにより、参加者数は令和3年度に比べて119,130人増加し、文化芸術活動への参加の場や発表の機会を提供することができた。</p>	文資
障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業 → 施策13参照				特教
県立博物館・美術館等における教育・普及事業	17,039	<p>県民の豊かな感性や創造性を育むため、県立博物館・美術館等において、体験プログラムの実施等の教育普及活動を実施する。</p> <p>○歴史と民俗の博物館（常設体験プログラム開館日全日実施、講座・体験プログラム24回実施、計5,880人参加）</p> <p>○さきたま史跡の博物館（講座・体験プログラム14回、出前授業51校実施、計2,782人参加）</p> <p>○嵐山史跡の博物館（講座・体験プログラム8回、講演会1回実施、計1,522人参加）</p> <p>○自然の博物館（講座・体験プログラム14回実施、計201人参加）</p> <p>○川の博物館（講座・体験プログラム18回実施、計808人参加）</p> <p>○近代美術館（講座・体験プログラム32回実施、計566人参加）</p> <p>○文書館（講座・体験プログラム7回、出前授業等28校実施、計1,002人参加）</p> <p>○さいたま文学館（講座・体験プログラム3回実施、計105人参加）</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加人数の制限や一部事業の開催中止等があったものの、校外学習等で来館した児童生徒への体験事業や展示見学などの実施や、県民を対象とした郷土埼玉の歴史や伝統文化などに対する理解を深める各種講座の開催により、県民が文化芸術に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を提供することができた。</p>	文資

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●埼玉県芸術文化祭への参加者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●参加者数</td> <td>1,468,000</td> <td>1,172,164</td> <td>1,114,789</td> <td>805,886</td> <td>858,565</td> <td>977,695</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●●▲▲年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>1,478,500</td> <td>1,484,000</td> <td>1,489,500</td> <td>1,495,000</td> <td>1,500,000</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【原因分析】</b>  令和4年度は、3年ぶりに埼玉県美術展覧会を開催したことや、地域文化事業の開催事業数が増加したことなどにより、参加者数は前年度から増加した。  しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の中止や、入場制限など感染症対策を講じながら事業を開催していること、参加する団体数がコロナ禍前と比べて減少していることなどから、年度目標値である参加者数まで達していない。</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	●参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886	858,565	977,695		●●▲▲年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000	<p>文資</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
●参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886	858,565	977,695																				
●●▲▲年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>コロナ禍にもかかわらず、埼玉県芸術文化祭における多様な取組、県立博物館・美術館等における充実した体験プログラムの実施がなされたことは評価できる。指標を数値上は達成できなかったものの、確実に芸術文化祭への参加者は増えており、次年度以降も増加していく見込みは十分であろう。今後は各講座・体験プログラムの実施を通して、より多くの県民に対し、広く文化芸術活動への意識付けを行うとともに、それが一人一人の継続的な関心へ、更にはその成果を発表したいという動機付けへとつながっていくことが期待される。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により社会経済活動が停滞する中で、感染症対策を行った上で埼玉県芸術文化祭を開催していただいたことは、出展者や参加者の文化活動のモチベーション維持に大いに貢献したと思う。また、県立博物館や美術館等の各種事業には沢山の県民が参加しており、特に児童にとって良い体験の機会になっていると思う。引き続き一層の充実を図っていただきたい。</p>																									
<p>今後の取組</p>	<p>障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業は令和4年度をもって廃止となったが、令和5年度から、特別支援学校の児童生徒が生涯学習に取り組むきっかけを作るため、生涯学習を実践している卒業生や地域の芸術家等を学校に招いて講演や実技指導を行う「生涯学習支援アドバイザー事業」を実施し、障害のある子供たちの生涯学習を推進していく。</p> <p>埼玉県芸術文化祭を実施することで、引き続き、子供たちをはじめ、多くの県民に文化芸術活動への参加の場や発表の機会を積極的に提供し、身近な場所で文化芸術に親しみ、楽しむことができる環境づくりを推進する。</p> <p>県立博物館・美術館等では、引き続き県民を対象とした郷土埼玉の歴史や伝統文化などに対する理解を深める各種事業を実施していくとともに、多様化する県民のニーズを踏まえ、より多くの県民の参加意欲を喚起できるような事業内容となるよう、より一層の充実を図っていく。</p>	<p>特教  文資</p>																								

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	28	伝統文化の保存と持続的な活用		
主な取組		○ 伝統文化の保存・活用・価値の再評価		
		○ 伝統文化の魅力発信と学ぶ機会の充実		
		○ 市町村の取組への支援		
担当課		文化資源課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
文化遺産調査活用事業	3,044	<p>埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査等を実施する。また、新しい視点での博学連携を推進するため、学習プログラムの普及活動を実施する。</p> <p>○学術調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無形民俗文化財：映像記録「玉敷神社のお獅子さま」制作など</li> <li>・自然遺産：「入間川流域自然遺産」の現地調査（飯能市・植物分野）など</li> <li>・歴史遺産：「新編武蔵風土記稿」に係るデータベース編集及び現地調査（小鹿野町・寄居町・坂戸市）</li> </ul> <p>○文化財保存活用地域計画策定支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全市町村を対象とした研修会（3回、延べ62市町参加）</li> <li>・協議会への参加による支援（7市）</li> </ul> <p>○博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博学連携による学習プログラムの普及を目的とした「博学連携に関する研修会」の実施（2回、計48人参加）</li> <li>・ニュースレター等を活用した、博学連携による学習プログラムの普及</li> </ul>	<p>県立博物館が実施する学術調査により各分野における新たな資料の収集及びその結果を公表した。また、市町村における文化財保存活用地域計画の策定及び策定後の計画の進捗について適切な支援を行った。これらにより、地域の潜在的な歴史文化遺産の掘り起こしとその魅力発信をすることができた。</p> <p>また、研修会の実施やニュースレターの発行等により、新しい視点での博学連携を周知し、推進することができた。</p>	文資
文化財保護事業補助	116,511	<p>指定文化財の適切な管理を図るため、文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付する。</p> <p>○国指定文化財、県指定文化財の保存事業（国指定8件、県指定35件）</p> <p>○市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付（42件）</p> <p>○県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業（7件）</p>	<p>補助金の交付により、文化財の保存措置を適切に行うことができた。</p>	文資
特別史跡埼玉古墳群保存活用事業	15,962	<p>特別史跡に指定されている埼玉古墳群の恒久的な保存を図るとともに、その価値を顕在化させ広く県民に発信するため、必要な整備を行う。</p> <p>○二子山古墳発掘調査報告書の刊行</p> <p>○案内・解説板整備</p>	<p>二子山古墳の発掘調査報告書を刊行することで、恒久的な保存及び整備のための学術的な基礎資料を得ることができた。また、特別史跡埼玉古墳群整備基本計画（令和4年度～令和13年度）に基づき古墳群内の案内板・解説板を整備することで、埼玉古墳群の価値を県民に発信することができた。</p>	文資

事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
埋蔵文化財保存活用事業	51,564	<p>埋蔵文化財保護思想の啓発を図るため、県が収蔵する出土文化財の整理・保存、遺跡見学会などの普及事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○弱い出土品である金属製品(300点)、木製品(300点)の保存処理を実施</li> <li>○「古代から教室へのメッセージ事業」の実施(40校、計3,149人参加)</li> <li>○遺跡見学会の実施(年2回、計261人参加)</li> </ul>	<p>出土品の保存処理、「古代から教室へのメッセージ事業」及び遺跡見学会の実施により、学校教育及び社会教育の場で遺跡の遺構や遺物を公開し、埋蔵文化財保護思想の啓発を図ることができた。</p>	文資
県立博物館・美術館等における活動の充実	124,307	<p>郷土埼玉の歴史や伝統文化などの魅力を発信するため、県立博物館・美術館等において企画展・特別展等を実施する。</p> <p>○主な企画展・特別展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史と民俗の博物館：企画展「銘仙」（観覧者数：9,896人）ほか</li> <li>・さきたま史跡の博物館：企画展「家形埴輪」（観覧者数：9,928人）ほか</li> <li>・嵐山史跡の博物館：企画展「武蔵武士と源氏一鎌倉誕生の時代」（観覧者数：6,724人）ほか</li> <li>・川の博物館：特別展「海なし雪なし火山なし 一ないけどある！埼玉との深い関係一」（観覧者数：20,221人）ほか</li> <li>・自然の博物館：企画展「奥秩父の自然」（観覧者数：28,481人）ほか</li> <li>・近代美術館：企画展「シアトル→パリ 田中保とその時代」（観覧者数：9,924人）ほか</li> <li>・文書館：企画展「坂東武者の生きざま～埼玉の中世文書～」（観覧者数：2,022人）ほか</li> <li>・さいたま文学館：開館25周年記念特別展「永井荷風」（観覧者数：6,034人）ほか</li> </ul>	<p>企画展の中では特に、嵐山史跡の博物館の「武蔵武士と源氏一鎌倉誕生の時代」は、NHK大河ドラマの放送で注目を集めた比企地域ゆかりの武蔵武士の存在と歴史など、地域の歴史の豊かさ、奥深さといった魅力を発信でき、好評を博した。</p> <p>また、令和2年度に緊急事態宣言下で中止した歴史と民俗の博物館の企画展「銘仙」を再度開催するなど、それぞれの博物館等で伝統文化等の魅力を発信した。</p> <p>感染状況が悪化した時期には一時的に利用者の減少傾向が見られたものの、全体的には、各館において利用者が戻りつつあり、伝統文化等の魅力について、広く発信することができた。</p>	文資
博物館、美術館におけるSNS等による情報発信	0	<p>より多くの県民が伝統文化に触れるきっかけをつくるため、SNSや動画投稿サイトを活用した情報発信を行う。</p> <p>○6館の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter：R4ツイート数：7,580回、フォロワー数：53,661人</li> <li>・YouTube：投稿総数：173本、再生回数：240,386回</li> </ul>	<p>各博物館・美術館においてSNS等を活用し、企画展やイベント、収蔵品の紹介を広く行い、博物館、美術館の魅力を広く伝えることができた。</p> <p>また、それぞれの特徴を活かした映像コンテンツを配信することで、多くの県民に学びの機会を提供することができた。</p>	文資

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●県立博物館等の年間利用者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <p>【原因分析】          新型コロナウイルス感染症拡大の影響が最も大きかった令和2年度を底に、回復傾向にはあるものの、社会経済活動の停滞の影響により、目標には達していない。          令和4年度は、各館の特色を生かした魅力的な企画展等を実施するとともに、教育普及事業では、再開した事業も増えたことから、令和3年度と比較して、利用者数の増加につながった。          ただし、利用者が多く見込まれる夏休み以降の時期に新型コロナウイルス感染症が拡大したため、大幅な利用者増にはつながらなかったと考えられる。</p> <p>※歴史と民俗の博物館 R4. 12. 5～R5. 10. 13（予定）まで大規模改修工事のため休館</p> <table border="1" data-bbox="443 523 1290 632"> <tr> <td>利用者数</td> <td>915,000</td> <td>938,719</td> <td>832,423</td> <td>302,544</td> <td>540,788</td> <td>627,505</td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>938,000</td> <td>960,000</td> <td>970,000</td> <td>985,000</td> <td>1,000,000</td> </tr> </table>	利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544	540,788	627,505		年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000	<p>文資</p>
利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544	540,788	627,505												
年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000											
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>本施策については、文化遺産・文化財等の保存という長期的かつ大規模な事業とともに、それらを活用し、より多くの機会を設けてより多くの人々にその魅力を発信するという、短期的かつ規模の限定された事業をどのようにうまく結びつけていくかが問われるだろう。その点、令和4年度の取組に関して言えば、それらの両方がバランスよく、関連させ合いながら展開されていたと思われる。今後は、より一層持続的な活用を目指すためにも、児童生徒、若者たちへの情報発信をSNSや動画投稿サイト等を通じて行っていくことが期待される。</p> <p>コロナ禍で県立博物館等の入場者数が目標未達となったことはやむを得ないものと思料する。文化財や史跡の調査・保護活動は長期間、地道な取組が必要となるが、県民の地元への愛着や理解を深めるために重要な取組であり、将来の県民にとっても価値のある活動となる。また、博物館等の利用者が増加したことは、難しい環境下で感染症対策を行いつつ展示活動を継続していただいたことによるものであり、今後も魅力的な企画の展示を期待したい。</p>																	
<p>今後の取組</p>	<p>文化遺産調査活用事業では、博物館等における調査を継続するとともに、引き続き研修会を開催し、文化庁の「文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」の改訂等最新の情報を提供し、市町村の文化財保存活用地域計画策定を支援する。</p> <p>県の宝である特別史跡埼玉古墳群の価値については、今後とも継続的な調査研究とともに積極的に情報発信を行う。また多彩な活用を行うためには埼玉古墳群の恒久的な保存が前提となるため、適切な整備事業、日々の管理を適切に実施していく。</p> <p>今後とも県が収蔵する出土文化財を将来に伝えるとともに、調査研究や生涯学習に資するよう適切に保存・管理する。また遺跡見学会、学校への出前授業等を実施し、埋蔵文化財保護思想のより一層の啓発を図る。</p> <p>県立博物館・美術館等では、今後とも魅力的で質の高い展示や講座等を企画・実施するとともに、各館の特徴を生かした映像コンテンツ等を積極的に発信することで、多くの県民に学びの機会を提供していく。</p>	<p>文資</p>																